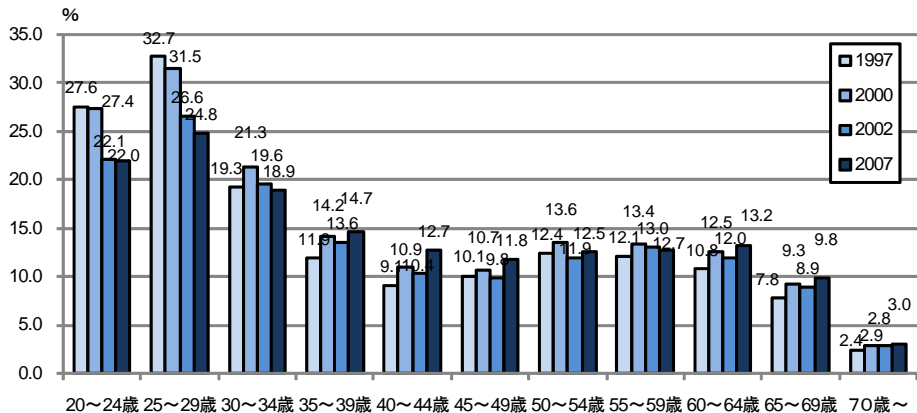
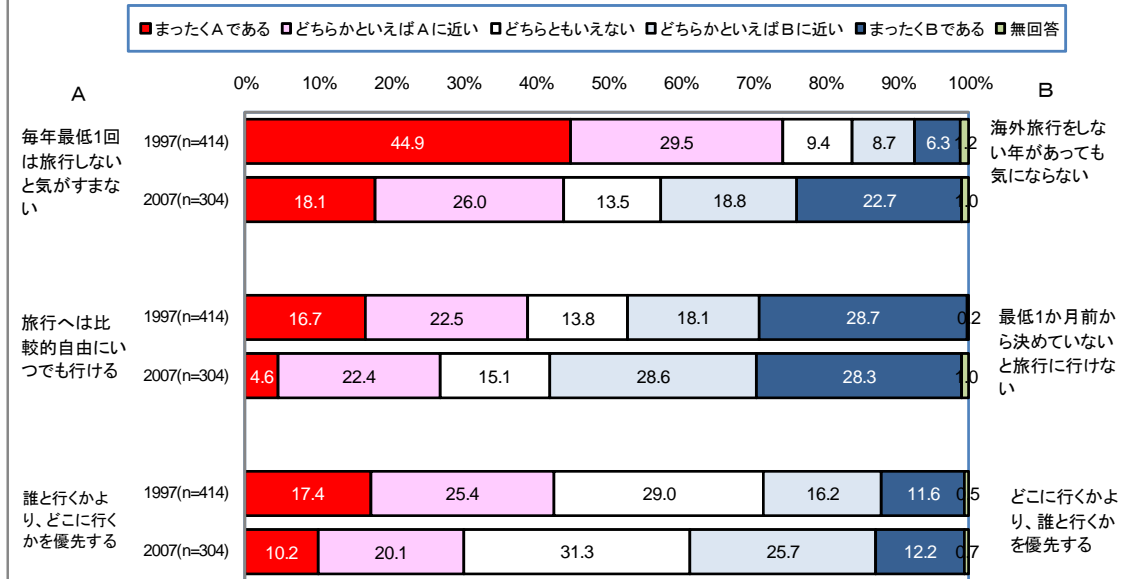


女性の年齢層別出国率(1997年/2000年/2002年/2007年)

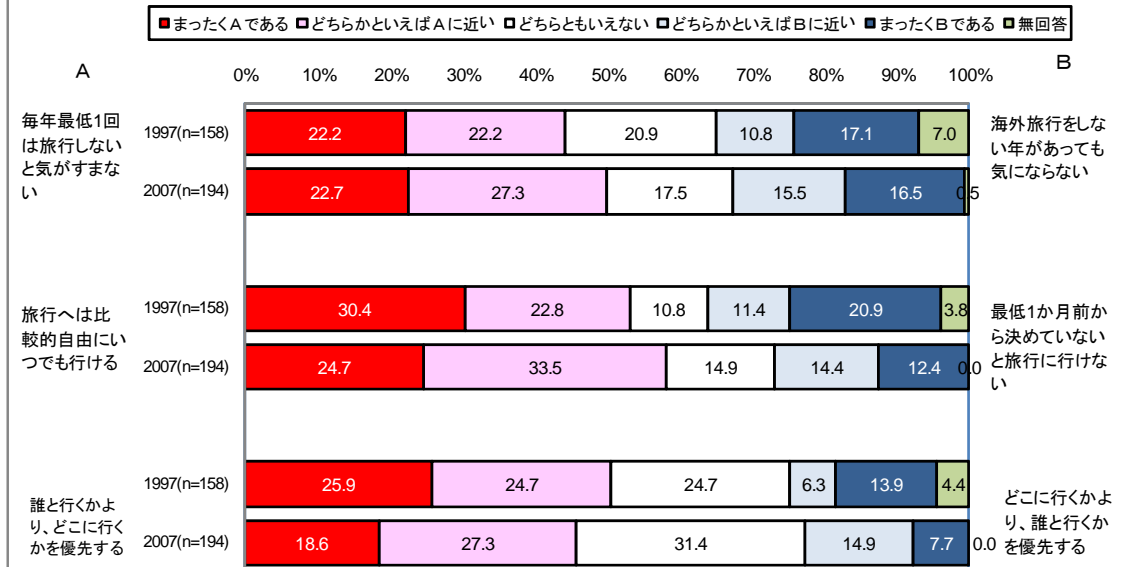


資料:法務省「出入国管理統計」、総務省統計局「10月1日現在推計人口」

## 女性(20代)



## 女性(60歳以上)



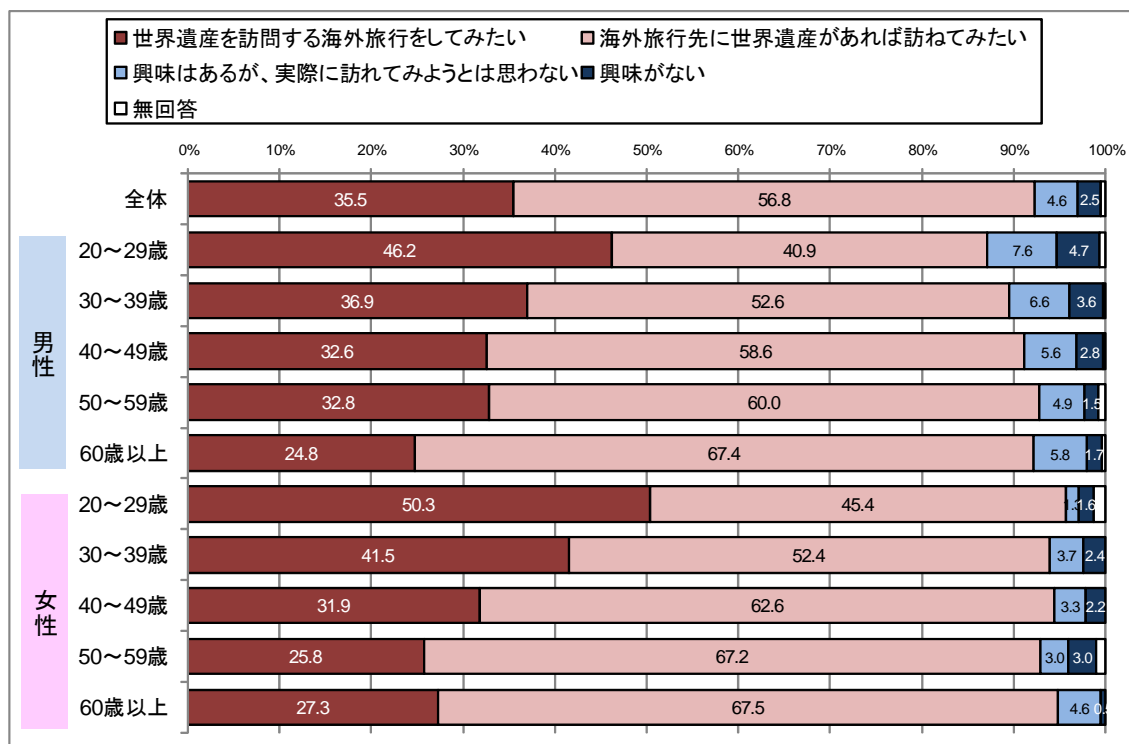
## 2. 今後の海外旅行の動向

### 2008 年の海外旅行マーケットを占う

(株)ツーリズム・マーケティング研究所では、昨年末に 2008 年の海外旅行者数を前年比微増の 1,735 万人と予測した。しかし、2008 年に入っても、日本人海外旅行者数は毎月前年を下回っている。(1 月～4 月の累計で前年同期比 5%減の見込み)

また、①中国への旅行者数の減少(1 月～4 月累計で前年同期比 7%減)、②ハワイ、オーストラリア、カナダなど観光主体のデスティネーションへの日本人旅行者数の引き続きの減少、③燃油サーチャージの度重なる引き上げと定期航空路線の削減、④原油・穀物価格高騰による日本経済、国民生活への影響、など今後への懸念材料も多い。2008 年の海外旅行者数は、前年比 5%減の 1,600 万人台半ばにまで落ち込む可能性も否定できない。

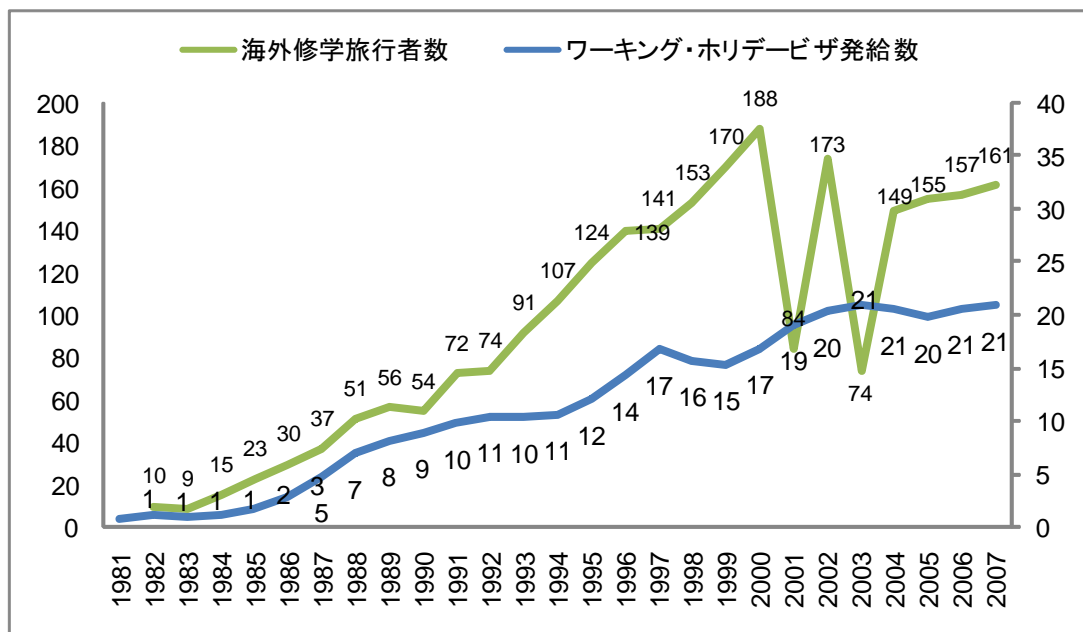
さて、2008 年以降の日本人海外旅行マーケットの展望を考えると、最も有望なのは団塊世代の参入とともにいよいよ活発になってきたシニアマーケットであろう。しかし、これまでのシニア以上に豊富な海外旅行経験によって高度化・個人化したニーズへの対応が要求されるとみられる。今回の「海外旅行実態調査」では、「世界遺産」が直接的な海外旅行への動機となり得るのかどうかを質問したが、年齢層の上昇とともに「世界遺産訪問」というだけで海外旅行を動機付ける傾向は低下した。



また、70 歳以上になると出国率が急激に低下するが、その主たる要因が年齢から来る足腰

の衰え、関節の痛みを自覚する人の増加にあるとみられる。業界全体での対応が求められるところだろう。

一方、縮小し続ける若者マーケットについても展望がないわけではない。修学旅行や語学研修など教育旅行分野での海外旅行の定着や 2001 年以降も毎年 2 万人前後が行っているワーキングホリデーなど、レジャー・観光とは異なる分野での海外旅行を契機に、新しい展開が始まる兆しが認められる。



資料: 社団法人ワーキングホリデー協会、財団法人日本修学旅行協会

※ ニュースリリースに記載されたグラフ及び数値は JTB REPORT 2008 及びバックナンバーを参考にしました。